

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人が学校を卒業してからも、生涯に亘って学び続けることの意義や必要性を理解すること。 現代社会にどのような学びの場があるのかを知り、また学習を保障する法律や法規を知ること。						
授業の概要	キーワード：生涯学習社会の理念と実情の理解 生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を理解するし、また、社会教育施設や、教育に関する自治体行財政や法律についても学ぶ。						
到達目標	生涯学習の目標を具体的に述べることができる。 生涯学習社会の歴史的経緯を説明できる。 現代の生涯学習や社会教育の場を列挙することができる。 アンドラゴジーとリンデマンの生涯学習理論を理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標について 第2回 学校教育と生涯学習の関連性及び生涯学習の現状を知る 第3回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 第4回 日本と外国の生涯学習に対する取り組みの比較考察 第5回 人間の成長と発達理論（様々なライフサイクル論・乳児期から青年期） 第6回 人間の成長と発達理論（エリクソンのライフサイクルの青年期・成人期・老年期） 第7回 子供の学習と成人の学習の違いについて 第8回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（アンドラゴジー理論の紹介） 第9回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（リンデマンの生涯学習論の紹介） 第10回 老年期に学ぶことの意義と実情について 第11回 死への準備教育（デス・エデュケーションの紹介） 第12回 社会教育施設および生涯学習施設の紹介及びその管理と運営について 第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について 第14回 生涯学習および社会教育に関する振興施策と推進に関すること 第15回 生涯学習および社会教育に関する教育法規について						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前 配布資料やテキストを読むこと 授業後 ノートを整理し授業内容を復習すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験70%、小レポート10% 平常点20%						
教科書	『生涯発達と生涯学習』 堀薫夫著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05667-5						
参考書	『生涯学習論 - 現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	中山 創太						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。						
授業の概要	博物館に関する基礎的な知識を学ぶ。それは博物館の定義、種類、機能、歴史などであり、今後の博物館学ならびに実習を進める上での基礎的知識である。さらに講義では、基礎的な知識を学ぶだけでなく、わが国の博物館の置かれた現状を把握することにも努め、これからの博物館のあり方を考える知識と能力を養う。						
到達目標	博物館とは何をする、そして何をすべき機関であるかを知ることができる。またそこに属する学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。また現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点も把握できる。						
授業計画	(1回) 博物館学の目的、方法（博物館論理学と技術学）、構成要素、周辺科学 (2回) 欧米と日本における博物館学史 (3回) 博物館の語源・定義（ICOM・ユネスコ・博物館法の規定）、他機関との相違 (4回) 博物館の種別分類、設置者別分類、法的区分 (5回) 博物館の目的とは (6回) 博物館の機能について (7回) 博物館の社会的機能（地域社会型、観光型、研究型） (8回) 欧米における博物館発達史 (9回) 日本における博物館発達史1（昭和20年まで） (10回) 日本における博物館発達史2（昭和20年以降） (11回) 博物館の現状と課題（種別、地域分布、入館者数など） (12回) 博物館の未来像、博物館と他者との「連携と対話」 (13回) 拡大する文化財概念と世界文化遺産 (14回) 学芸員の役割（定義、役割、実態、諸外国との相違） (15回) 博物館関連法令について						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、できるだけ博物館に関する情報に触れておくこと。講義で学んだことを、現実の博物館にてらしつつ、自分にとって博物館とはという問題を考え続けること。						
授業方法	講義形式にておこなう。						
評価基準と評価方法	平常評価（態度、発表、課題レポート実施、小テスト等）70%と、期末レポート30%にて、総合的に評価する。						
教科書	授業中にプリントを適宜配布。						
参考書	授業中に紹介します。 ・倉田公裕・矢島國雄著『新編 博物館学』（東京堂出版） ・高橋隆博他編著『博物館学ハンドブック』（関西大学出版会）						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館教育論						
担当教員	三好 唯義						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館における教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識となる方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。						
授業の概要	博物館は社会教育の場、生涯学習の場である。この認識と対応は、現在の博物館にとって重要な課題である。博物館は学びの場としてどうあるべきか、そして利用者に対してどのように教育的活動を提供し、実践してゆけるかを考察する。博物館そしてそこで働く学芸員によって実践されている事例を学び、さらに将来に向けてどのように展開してゆくべきかを考えたい。						
到達目標	博物館が実践している教育的な活動を、具体的に知ることができる。 博物館教育の理論と具体例を学ぶことによって、新たな活動例を企画・立案することができる。						
授業計画	(1回) 学びの意義 (2回) コミュニケーションとしての博物館教育（博物館教育の双方向性） (3回) 博物館教育の意義 (4回) 生涯学習と博物館 (5回) 博物館教育の方針と評価、評価の基準 (6回) 博物館の利用実態（多様な利用者とニーズ）と利用者の博物館体験 (7回) 博物館における学びの特性（モノを通しての学び） (8回) 博物館教育活動の手法（講座、講演会、体験学習、ギャラリートークなど） (9回) 博物館教育活動の手法（体験学習と博物館資料） (10回) 博物館教育活動の手法（子ども向け講座、ワークシートなど） (11回) 博物館教育活動の手法（生涯学習としてのボランティア） (12回) 博物館教育活動の手法（情報提供、資料の特別利用など） (13回) 博物館教育活動の手法（出版事業、ホームページなど） (14回) 博物館教育活動の企画と実施 (15回) 学校教育との連携						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館施設の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、博物館が実践している諸活動に関する情報に触れておくこと。そして、自らも参加・体験することが望ましい。 講義で学んだこと、現実の博物館で実践されている教育活動を知り、博物館教育とはどうあるべきかという問題を考えること。						
授業方法	講義形式にておこなう。						
評価基準と評価方法	平常評価（出席、態度、発表、課題レポート提出等）70%と、期末テストまたはレポート30%にて、総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館経営論						
担当教員	問屋 真一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館の望ましい管理・運営のあり方について、博物館の組織、施設、行財政の諸問題、市民・地域社会等との連携の現状と課題に即して考える						
授業の概要	博物館経営（ミュージアムマネジメント）について、博物館を取り巻く近年の状況をふまえ、その意義と経営基盤・経営システム（国立・公立・私立）の現状と課題について概観する。また今日の課題である使命の明確化や評価、市民サービスのあり方などを取り上げ、博物館が課題解決のためにさまざまな連携活動等を取り組み、社会環境の変化に対応していることに言及する。						
到達目標	博物館経営に関する諸問題の基本的事項を理解し、市民にとってどのような博物館が望ましいのか、考察することができるようになる。						
授業計画	第1回 博物館経営とは …経営的視点の必要性、博物館を取り巻く環境 第2回 組織と学芸員① …学芸員制度と問題点、望まれる学芸員像と現状 第3回 組織と学芸員② …分業と配置、館長以下の職務と育成 第4回 施設と設備① …立地条件と建築、施設の配置と設備 第5回 施設と設備② …文化財公開施設としての博物館 第6回 行財政 制度と財政 …法体系と施策、基準の見直し、財政状況 第7回 行財政 国立 …独立行政法人の意義と問題点 第8回 行財政 国立 …独立行政法人の改革、諸外国との比較 第9回 行財政 公立① …公立館の財政状況と組織 第10回 行財政 公立② …指定管理者制度の意義と問題点 第11回 行財政 公立③・私立 …地方独立行政法人の課題、公益法人制度 第12回 使命と評価① …使命と自己点検評価、外部評価の意義と問題点 第13回 使命と評価② …評価と博物館改革の取り組み、倫理と危機管理 第14回 利用者サービスと市民参画 …広報・広聴を活かした活動、ボランティア活動 第15回 市民・地域・他館との連携 …社会的使命実現の取り組みの現状と課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から多くの博物館、展覧会を見学することが望ましい。 また授業で得た知識や問題意識をいかして博物館、展覧会を見学し、新たな疑問や課題を持つことが重要です。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験またはレポート(6割)に加え、提出物や授業態度、意欲などの平常点(4割)を重視する。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	講義中に適宜紹介する。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料保存論						
担当教員	田中 由理						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化財を後世に伝えていくための保存論						
授業の概要	博物館における資料保存の意義について考えた上で、資料の保全について、資料の状態調査、修復、梱包・輸送にかかわる基礎知識を学びます。続いて、博物館資料の保存環境について、保存の諸条件とその影響、生物被害とIPMによる対策、災害対策、収蔵・展示における保存問題を考えます。さらに、地域資源の保存と活用、文化的景観保存、自然環境の保護の観点から、環境保護と博物館の役割について理解を深めます。						
到達目標	博物館における資料保存、及びその保存・展示環境、及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養います。						
授業計画	第1回 博物館における資料保存の意義 第2回 資料の保全における諸問題 第3回 資料の状態調査・現状把握 第4回 資料の修復・修理 第5回 資料の梱包と輸送 第6回 博物館資料の保存環境－現状と課題－ 第7回 資料保存の諸条件とその影響 第8回 生物被害とIPM（総合的有害生物管理） 第9回 災害の防止と対策、文化財レスキュー活動の在り方 第10回 伝統的保存方法 第11回 収蔵、展示等の保存環境 第12回 環境保護と博物館の役割－事例研究－ 第13回 地域資源の保存と活用－エコミュージアムの試み－ 第14回 文化財の保存と活用 第15回 自然環境の保護－生物多様性と種の保存－						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館資料保存論は、博物館の学芸員をはじめとして、実際に資料を扱う立場になったときに、どのような心構えで文化財や資料と向き合うかを学ぶ授業になります。そこで博物館や美術館に実際に足を運んで資料を身近に感じたり、資料の保存についてのニュースやテレビ番組などにも関心を持っていただいたりなど、普段からアンテナを立てていただくことが一番の準備学習になるかと思います。						
授業方法	基本的に講義形式です。 ただし、例えば梱包で用いる材料や方法（第5回の授業）など、実際に試すことでより理解できる知識もあるので、人数的に可能であれば、そうした体験をしていただく時間も取り入れていきたいと考えています。						
評価基準と評価方法	平常点や授業中の課題30%、レポート70%						
教科書							
参考書	『博物館学Ⅳ－博物館資料保存論＊博物館実習論』大堀哲・水嶋英治編著 学文社 ISBN 978-4-7620-2287-6						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料論						
担当教員	問屋 真一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館資料の種類と特徴、および館活動の最も基礎的で重要な資料収集、整理保管、調査研究等について						
授業の概要	博物館資料の収集、整理保管、活用について、主として人文系博物館の資料に即して理論と方法を概観し、自然科学系博物館の資料に関しては人文系との異なる特徴について理解を促す。資料の活用、公開、調査研究活動が市民と博物館との連携を支えるものであることを理解し、博物館資料に関する基礎的な能力を養う。						
到達目標	博物館資料の種類と特徴について理解し、資料の収集・整理保管・調査研究等について理論と方法に関する基礎的な知識を習得する。また調査研究活動とその公開の意義について考察できるようになる。						
授業計画	前期 博物館資料論 第1回 博物館資料の意義と資料化 第2回 人文系資料の種類① 第3回 人文系資料の種類② 第4回 人文系資料の種類③ 第5回 収集の理念と方法① 第6回 収集の理念と方法② 第7回 自然史・動植物園系資料の収集 第8回 理工系資料の収集 第9回 資料の分類・整理① 第10回 資料の分類・整理② 第11回 資料の分類・整理③ 第12回 資料の分類と整理④ 第13回 資料の公開 第14回 調査研究の意義と内容 第15回 成果の公開と方法 …モノとコト、一次資料と二次資料 …美術資料の種類と特徴 …歴史・考古資料の種類と特徴 …民俗資料、その他の資料の種類と特徴 …収集方針とコレクション、各館の方針と特徴 …収集（寄贈・寄託・購入等）の実際 …種類、収集の特徴、自然保護・環境教育 …種類、収集と価値観の特徴と課題 …受入、登録の方法と実際 …分類と目録の特徴 …美術資料の調査と整理 …歴史資料の調査と整理 …理念と方法、特別利用、データベース …個人研究と共同研究、地域調査と資料調査 …調査研究報告と展示活動、地域社会への還元						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から多くの博物館、展覧会を見学することが望ましい。 また授業で得た知識や問題意識をいかして博物館、展覧会を見学し、新たな疑問や課題を持つことが重要です。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験またはレポート(6割)に加え、提出物や授業態度、意欲などの平常点(4割)を重視する。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	講義中に適宜紹介する。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館情報・メディア論						
担当教員	塚原 晃						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館・美術館におけるICT（情報コミュニケーション技術）の応用						
授業の概要	博物館が収集した1次・2次資料に関する情報は、博物館活動を展開する上で基幹となる情報である。近年、マルチメディアの発達が目覚ましいが、それに伴い博物館情報のデジタル化も急速に進められている。このデジタル化は博物館情報に新たな価値を付与するとともに、博物館活動に大きな変化をもたらしている。その結果、情報の管理や活用上の新たな課題も生じており、学芸員にはそれに対処する知識・能力が求められている。そこで、この科目では博物館が持つ情報の意義と、近年の各メディアを用いた博物館活動の展開について、具体的事例をもとに学び、新たな課題についても理解を深める。						
到達目標	博物館における情報の意義と活用方法、および情報発信の課題等について理解し、博物館の情報提供と活用方法等に関する基礎的能力と倫理を習得。						
授業計画	第1回 博物館における情報・メディアの意義と種類（博物館での9種類の情報） 第2回 博物館活動の情報化（調査研究・教育普及から広報・広聴活動まで。学校・図書館・研究機関の情報化との相違と関連） 第3回 メディアの理論・歴史と情報の意義・メディアとしての博物館（メディアの発展と博物館・情報） 第4回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化Ⅰ 第5回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化Ⅱ 第6回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化Ⅲ 第7回 デジタルアーカイブの現状と課題（画像データベース構築事例を中心に） 第8回 情報機器の活用（情報機器に関する知識・経験） 第9回 情報管理と情報公開Ⅰ（博物館での情報管理システム構築） 第10回 情報管理と情報公開Ⅱ（情報公開の実際・コンテンツ制作について） 第11回 ICT社会の中の博物館（博物館でのインターネットの活用、特に情報資源の双方向活用と役割・情報教育とメディアリテラシー、博物館メディアの役割と学習活用） 第12回 情報倫理・映像倫理（情報・コンテンツの公開で博物館に求められる倫理観） 第13回 博物館と知的財産Ⅰ（個人情報・知的財産権のあらまし） 第14回 博物館と知的財産Ⅱ（権利処理の方法） 第15回 博物館の情報化と新たな価値の創造（課題レポートの発表）						
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業では、博物館・美術館のインターネットによる情報発信・共有について話題になることが多いので、授業中に指定したWEBサイトなどを閲覧し、次の授業に必要な情報収集を求める場合がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題レポート40%、平常点60%（詳細は初回講義で説明）						
教科書	なし。						
参考書	『文化財写真の保存に関するガイドライン ～ デジタル画像保存の実情と課題 ～ 』（文化財写真保存ガイドライン検討グループ作成、（一社）日本写真学会、文化財写真技術研究会発行、2012 5月） www.spstj.org/item/pdf/1337264652_event_pdf2.pdf						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習						
担当教員	宗像 衣子・山本 和人						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	3.0
授業のテーマ	博物館学芸員課程の4年間の総まとめ						
授業の概要	本科目は、夏期の館園実習を中心にして、その事前指導と事後指導（講義・演習含む）、実務実習及び見学実習（日曜日）で構成される。 夏期館園実習は各学生の能力に応じてできるだけ専門領域関心分野に関わる実習館を用意する。 事前に十分に各館について全員で学び、調査発表等によって互いに知見を共有し、各々一定の実践的能力を備える。 シラバスは館園実習（夏期5～6日の終日）を除く。 （A：担当 宗像先生、B：担当 山本先生） （この科目以外に、任意設定科目：比較文化ⅠAB、考古学で関連学外研修・実習の可能性あり。）						
到達目標	博物館学芸員課程の4年間の学修の総まとめの意味をもつ科目であり、原則として3年次までに博物館課程の、実習を除く必修科目、必要な選択必修科目をすべて修得し、かつ一定の学修基準等を満たした学生のみに履修が認められる。 多様な館種の実状、そこでの学芸員の仕事を把握し、実践的能力を養うことで、学科の学びに理論的並びに具体的に関連付けられた課程としての集大成ができることを目標とする。（少人数クラスで充実した個別指導）						
授業計画	不定期の授業時間になるが、受講許可による授業である性質上、授業の内容や日程まだ未定部分が多いので、学科からの連絡で登録を許可されたものは、4月の第一回目の授業に出席して、授業日程と具体的内容その他詳細や注意事項に関する説明を受けること。 * 受講許可者が決定後、その人数や専門等、またそれに関わる館への申請や館からの要請や通知・依頼状況により、内容・日程について変更が生じると予想されるが、とりあえず以下、暫定的なものとして参考までに記しておく。 （前期（予定）） 第1回 総合文芸学科での実習 第2回 学科学修と学芸員課程との関係 第3回 美術館・博物館事情 第4回 学芸員の仕事1（絵画・書等の見方と扱い） 第5回 学芸員の仕事2（工芸品等の見方と扱い） 第6回 学芸員の仕事3（作品梱包） 第7回 学芸員の仕事4（作品展示） 第8回 夏期実習準備 * この間に見学実習（日曜日・3回の予定）あり（日程・内容等は4月初回の授業時に通知） * 夏期休暇中に館内実習あり（館と時期日程の確定は6、7月頃）終日6日位（予定） （後期（予定）） 第9回 実習報告・確認・後期のプラン 第10回 展覧会実務、広報 第11回 教育普及活動 第12回 調査と研究 第13回 収集と保存 第14回 総合 第15回 学科学修と学芸員課程学修の総括 * この間に見学実習（日曜日・3回の予定）があり（日程・内容等は4月初回の授業時に通知）						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	なし						

参考書	なし
-----	----

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館展示論						
担当教員	田中 由理						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーションとしての展示論						
授業の概要	博物館における展示について、コミュニケーションとしての展示、研究成果の提示等からその意義について考え、展示論の歴史やその政治性と社会性について見識を深めます。また、博物館展示の実際として、展示形態に関する理論、及び展示の製作方法から評価・改善までの諸事例について理解します。さらに、展示の解説活動として、解説文やパネル、人、機器を用いた解説法、展示図録等の製作について学びます。						
到達目標	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論、及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養います。						
授業計画	第1回 博物館展示の意義 第2回 コミュニケーションとしての展示 第3回 調査研究の成果の提示 第4回 展示と展示論の歴史 第5回 展示の政治性と社会性 第6回 博物館展示の事例研究 第7回 展示の諸形態 第8回 展示の製作－企画から施工まで－ 第9回 関係者との協力 第10回 展示の評価と改善・更新 第11回 展示の解説活動の諸事例 第12回 解説文・解説パネル 第13回 人による解説－学芸員、ボランティア解説員－ 第14回 機器による解説－ビデオトーク、模型展示－ 第15回 展示解説書－展示図録の作成－						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館展示論では、学芸員がどのような意図をもって、どのような方法で、一般の人々に対して資料を提示し、コミュニケーションを図っていくべきなのかを学びます。そのため、実際に博物館や美術館に足を運んで、そこでの展示の工夫や、来館している人々の様子や反応などを感じていただくことも重要だと思います。またもし自分が展示を企画することになったら、どのようなものにしたいかなども、授業の中で実践的に考えてみたいと考えており、そうした企画展の題材についてもあらかじめ考えておいていただけるとありがたいです。						
授業方法	基本的には講義です。ただし講義する内容には、博物館展示をするための実践的な話が多く含まれるので、体験をしたり、実際に考えたり、作業をするような時間も取り入れていきたいと考えています。						
評価基準と評価方法	平常点や授業の課題20%、期末の提出課題80%						
教科書							
参考書	『博物館学Ⅱ－博物館展示論＊博物館教育論』 大堀哲・水嶋英治編著 学文社 ISBN 978-4-7620-2285-2 『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』 デビッド・ディーン著 北里桂一監訳 山地秀俊・山地有喜子訳 丸善 ISBN 978-4-621-07362-9						